



JCLIFE

2019年
6月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>

5月例会

5月20日(月)、しまなみ交流館大ホールにて、拡大研修委員会(小林暢玄委員長)が5月例会を開催しました。

本例会は、「サッカーを通じて入った 遺伝子スイッチ くチャレンジし、輪を広げ、実現する未来」のテーマの下、サッカー元日本代表監督であり、株式会社今治・夢スポーツ 代表取締役会長 岡田武史氏にご講演いただきました。



サッカーを通じて、どのような経験を

され、その中でチャレンジ精神をどのように培ってきたか。また、コーチ・監督をする上でのぶれない信念について、非常に興味深く、参加された皆さまも真剣に聞かれていました。



現在は、経営者というお立場でご活躍されており、経営者としての行動哲学

についても知ることが出来ました。

「夢を描く、夢を語る」「妄想する」「あらゆる行動をする」

仕事や人生において、大きなヒントを数多くいただきました。

一見、途方もない夢を語っているように聞こえるかもしれませんが、実は夢の実現に向けてありとあらゆる行動や結果を想定して活動されていることを痛感させられる、本当に素晴らしいご講演でした。

多くのサッカーファン、日本代表を応援する者たちを魅了した日本代表での様々なエピソードも散りばめられており、あの頃にフラッシュバックした気分を味わえました。



当日は、足下の悪い中、多数のご来場をいただき、盛況に終えることができました。

(記事：岡田貴臣)



広島ブロック野球大会

令和元年5月12日

(日)、広島ブロック野球大会が大竹の地にて開催されました。暑さを感じた試合が繰り広げられました。

グループリーグ第1戦は呉JCCと対戦。麻生先輩の3打点・山北理事長のノーヒットピッチングの活躍も、試合時間ルールにより先攻である相手の攻撃で試合終了となる不運もあり、3-4で惜敗。



第2戦は因島JCCと対戦し、二進二退の展開の後、原田選手の逆転サヨナラスリランが飛び出し勝利するも、残念ながら予選敗退という結果となりました。



決勝リーグには進めませんでした。ですが、ベンチからの声も大きく一丸となつて戦うことができ、これからのつながる大会となりました。

(記事：内海洋平)





岡田 今回の市長選、四期目のご当選をされたということ、選挙をふり返って、選挙期間中に色々なまちの人の声をお聞きになられたと思いますが、どのような応援ご意見がありましたか？

市長 四期だからではなく、市長になったらスタートは一緒ですね。今までは、ランナーを選ぶ時に、この四年間は誰を市長にして尾道の町を先頭に立てて走らすのか、ということを選んでいただきましたが、今回の選挙は、尾道市の市民にとりては未来を感じられるであろうとか、安心に感じられるのだからという想いではないかと。

新しい新人がいいという選択もあったでしょうが、今回は、昨年の7月の災害の復興、あれから新しい令和元年を誰に託すのかという点を、駅伝と一緒に短距離だけ若い勢いのあるのを走らせるのか、長距離だから長距離の強いのを活かそうとか、そういう形の中で経験を重ねることで、市民の皆さまに選んでいただいと実感しています。

岡田 今回の選挙では、尾道市民の皆さまが求めてるものと、それを実現するために矢面に立つには、平谷市長がいいと判断されたのですか。

市長 そうですね。今までの災害の復旧から未来作りの取り組みを託されたとかんじています。だから最初は安全安心がキーワード、次は自分たちの町が合併をして、合併特例債をつけた事業がほぼこの四年間で終わるので、自分たちの町に誇りをもって住み続けたい、合併してよかつたと思わせたい、それから地方創生、産業が活性化しないと意味が無いですよ。それで成長する町と子どもたちの未来を…。それが今回の四年間の展開に向けての政策であり取り組みです。

岡田 昨年の西日本豪雨災害が起こったことによつて、まちの人たちの危機意識も変わったのでしょうか。

市長 自主防災であるとか、この度の断水があったとか、あるいは自分たちの住まいがどうなるのか…。そういったものも、もう一度7月の豪雨のようなことになったときにまた同じようなことが起こらないかというような心配もありますね。まだビニールシートのままの所もいっぱいあります。私自身、広島県土木協会の会長をさせていただいています。広島県や国のネットワークを持っているということなので、災害の復旧や復興に向けて力を発揮しなさいという意味合いでも、選択したのだらうかと思っています。

まちづくりそのものは継続していくことで初めて力を発揮出来ます。尾道がこの5月の10連休で今までは違う倍くらいの観光客が入ってきています。尾道は継続したまちづくりを、歴史的風刺だとか日本遺産とかの取り組みの中で、JRRが新駅舎を新築して拠点駅にしましたよね。何が違うかという、尾道駅はこれまでの駅と違って、アトリエのようなデザインになっているということ。地方創生の中、建物に新しい価値を入れるにしているということ。

尾道市庁舎において、従来の庁舎とは違い、市民の使う空間の中に行政とか議会が入る。これは日本で初めての建物が出てきていると感じています。

千光寺の中腹に「LOG」という多目的施設が出来ていますが、世界的な建築家のスタジオムンバイのビジョイさんが設計しています。尾道は世界を代表する建築家の伊藤豊雄先生とコラボもしています。今までは古い、建築物が古い歴史的な建築物と合わせながら新しい価値が富んでいるので、JRRもそれにベクトルを合わせてきたのかと。

岡田 確かに、ただ建て替えるだけだったから、ここまで大きな変化は考えられなそうですね。

市長 朝日新聞さんでは、長い歴史の中でずっと価値を高めているという表現をしています。1年くらいではあんまり変わらないけど、10年前と今を比べたらガラッと変わっている。例えば、自動車も私が市長になった2009年。しまなみ海道10周年かちやっています、11の間にか膨れきています。建物は何も造っていない。しまなみ海道という中に自転車という取り組みを入れただけなんです。だから町が少しずつ変わってきている。観光地とは思ってきてもおらず、心地いい空間を味わいに来てくださっています。

岡田 確かにそうですね。尾道に来られる方々に、ただ駅を眺めたり、ただ商店街をポロっと歩いたり、ゆつくりと自転車をこいだり…。非日常をの

んびりと味わっていますよね。

市長 若い方では、宮島よりいいよねって言うんですけど。宮島はゆるゆる観光地ですから。尾道はそうじゃない。それでも、各お店や企業がみんなで少しずつ価値を高めていっています。それは短い期間で出来るものではないですね。

吉田 何事もすぐ成果が出るのは難しいですね。積み上げていくにも時間がかかりますし。

市長 だから、青年会議所の取り組みもすぐ結果として出てこないけど、長い尾道の青年会議所の歴史の中で積み上げていくのはあるんじゃないでしょうか。

岡田 そうですね。先輩方がされてたことが今になって花開く、というのはありますね。二期ごとに体制が変わっていく中で、いかに持続可能な長期的なものを持つていくことも肝要ですね。

市長 世界の中で行つてみたい52箇所の島々というのがありますが、2010年から始まっている瀬戸内国際芸術祭も選ばれています。瀬戸芸というのは2010年、2013年、2016年、そして2019年とあります。しまなみ海道もそうですが、どれも継続してやっている素材の中に、片方はサイトという価値を入れて、片方は現代アートという価値を入れていくことによつて新しい魅力になる。島は元々ある。それと合わせて最近では百島がクロズアップされています。閉校になった学校に入つてもらつて、新しい価値を創造されている。その中には必ずキーになる人がいて、そういう人と出会わなければならない。

尾道愛の強い方たちが色々なことやつておられる。夜間景観をしておられる石井幹子さんは、パリの高垣さんに紹介いただいた縁を頂きました。

岡田 すいいですね。尾道の企業さんには、ご自身の企業だけのことじゃなくて、尾道のことを考えておられる方がすごく多いなって思いました。

市長 だからそういう意味では尾道愛、ふるさと愛の強い人が様々な提言をしてくれているのですね。

岡田 尾道の地元の方々、市長に対してこんなことしたらどうなの？おもしろいよね？というような声は、届けられるものなのですか。

市長 そこまで多くはないですが、意見だとかそういうものはいただきます。例えば、今、瀬戸内海でアサリがとれない。今、アサリを生懸命やつているのが山波とか浦崎です。アサリが採れるようになってきています。そうすると、アサリでアサリどんぶりをやらないかかって、「尾道どんぶり」という感じで、これはいける！と思えましたね。

岡田 そうですね。ひとつの名物になりそうですね。

「あこう」があこう祭りのような形でいるんな企業さんが入っていましたし。

市長 やっぱり魚の町なんですよ。それに尾道という町の名前をつけたら、尾道ラーメンとか尾道焼きとかいろいろ出来るんですが、あさりという資源を生懸命育てられて、一方で国の事業でもやつています。尾道の名前とあしりをつくる。それをシーズンにかけてやつていく。こんな発想も面白いですね。

岡田 ちょうどこれからのシーズンですもんね。私自身、昔は千汐や向東の歌に潮干狩りによく行つて、当時はよく取れてたイメージもありましたね。あさり汁をご飯にかけて食べた美味しかった。

市長 あさり汁を飲むことも減つてしまいましたが、小さい時は食べていた記憶があります。今はなかなか機会が無くなりましたね。

市長 継続していくと、色々なことがありますが、力になってくる。3年くらいかけても力にはなりません。やつぱり10年ですね。瀬戸芸でも2010年から2019年、ちょうど10年。だからやつぱり10年ですね。

岡田 そのまですると、定着して自然と仕組みが出来てきますね。

市長 それは努力しているからです。そういうことが循環してなつてきますね。

岡田 この先、10年後というのは、市長のビジョンはかがしでしょうか？

市長 港と船ですね。間違いないと思っています。尾道の町という観光のものはガンツウやサイクルシブという観光のもののというよりは、寄港地としての尾道の価値という観点ですか。

市長 尾道の町地形的特徴というのは尾道水道があり、尾道の南側は海です。

海で暮らす人、島で暮らす人の人数は、おそらく瀬戸内海で一番多いと思います。昔、島の人たちは船に乗って尾道側に来て買い物してました。車が郊外時代ですね。車が来て橋が出来て、みんな郊外の方に行つて大型駐車場ができて変わってきたでしょう。それが今ではCO2の削減とかになつてくると、逆に電動とか自動とか自分で車を持つていくのがなくなってくる時代になります。そうすると、資源をもつと活かそうと思つたら、今ある港を活かしてという話になってきます。そこで、JRR西日本インベシジョンズが瀬戸内海を繋ぐ新たな船の開発計画を打ち出しました。

た。
岡田 そういふ動きの中で我々尾道青年会議所として期待することは何ですか？
市長 そういった活動にぜひ一緒に乗っかってほしいですね。

岡田 そうですね、新たな価値の創造を我々青年経済人が担っていききたいですね。
市長 日常の景色の中に海があるけど、海で遊ぶとか海でなんとかしようというのが無くなっています。海水浴に行こうとか。

吉田 海離れつてちよつとありますもんね。
市長 それをもう一度海に親しむ環境を作らなきゃいけない。それはJICができるひとつの考えかもしれません。

吉田 全てのものが繋がって、まちが発展しているんですね。

市長 今まではしまなみ海道だけに向けて観光客が向いていますが、例えば、三原から自転車に乗って土生まで行って、土生港から船に乗って島を楽しんで帰るのもひとつのコースになったり。今までは、海とか船とかいうイメージがなかったけど、新しい流れを今のJRさんがコラボレーションしてやっています。

尾道市はJR西日本の岡山支社と連携協定しています。この度はJR西日本さんと中国運輸局と瀬戸内海汽船、それが全部民間と国が連携協定して海事観光をやるぞ、と言っていたいています。

岡田 そうすると尾道の造船も活発になります。
市長 そうですね。尾道のアルミ船でやろう、という話になっています。

岡田 そうすると尾道の地元企業さんも積極的に関わることが出来ますね。

市長 海事産業は海事観光という流れをつくっていききたいですね。

開港850年の尾道で新たなスタートという海事産業。元々あった産業から新たな海事観光へつてストーリーが出来ます。
岡田 具体的なイメージまでわかりますね。それに対して我々は何したらいいのだからって具体的なビジョンが浮かびますね。

市長 この前は東京の伊藤豊雄さんを訪問して、話をしてきました。来年の夏ぐらいに建築を志す大学生に向けて尾道でフォーラムをやる予定です。尾道周辺の建築は尾道アーキテクトとアーキラインといって東京では有名です。それで学生を呼んで建築を志す子が、伊藤先生も含めて対談を何かをして、尾道に来てやろうという方向には

はなつています。
こういった活動においても、青年会議所の活動が色んなことに絡んできて、これからの尾道のまちを作っていくのではないのでしょうか。JICのOBの方たちもそうでしたし。
今まで尾道とは違った尾道の観光にはなっていくと思えますよ。



●インタビュー後記

平谷市長とお話をしていると、尾道のまちとひとの縁の輪が尾道を飛び越えて、日本中に広がっており、そこから、新たな発想や活動に繋がっていることを実感しました。
根底には、みんな尾道のことが大好きだという想いがあることを感じました。
尾道青年会議所としても、何が出来るのか、多くのヒントをいただくことが出来ました。
平谷市長、お忙しい中ありがとうございました。

(記事：吉田 高正)

ブロックアカデミー

6月1、2日

(土日)、和木地域ふれあい交流センター(旧和木小学校)にて、中国地区広島ブロック協議会 広島ブロックアカデミーが開催されました。

県内各地会員 会議所の近年入会者を対象として、様々なプログラムを通じて修練、友情を育みました。

今年度は、1日目は各班に分かれ、日本JIC公認のJICゲームを行いました。

その後、尾道青年会議所から出向している高山敦好くん、公益社団法人金沢青年会議所の河上伸之輔君を講師としたSDGsゲームを使用したSDGsセミナーを行い、大いに盛り上がりました。

1日目のプログラム最後は、判別対抗三原ハンターと題し、様々な試練に挑戦しながら三原の魅力を体感す



るプログラムが行われました。

2日目は、「青年会議所の魅力とJAYCEEの魅力について」をテーマに、広島ブロック協議会2011年度会長 西井裕昭先輩より、熱くご講演いただきました。

他地域の青年会議所メンバーとともに、学び友好を深める素晴らしい機会となりました。

(記事：内海洋平)



異業種交流会

5月20日(月)、尾道wharfにて異業種交流会を開催しました。

拡大研修委員会・小林委員長が、「尾道青年会議所の活動を広く知っていただきたい」という熱い想いを、形にすることができ、業種や年齢・立場を超えて多くの方にご参加いただきました。

今年度、仮入会をされていらっしゃる入会候補者の方からは、「素晴らしい経験が出来て感動しています」というお声も頂戴しました。

尾道のまちとひとを繋げる

これも、尾道青年会議所の大事な責務だと感じています。結果として、尾道が盛り上がり、尾道に住んでいる方々が幸せになる。そんな相乗効果が生まれることを願っています。

尾道のひととまちが元気になるよう、多くの同志を求めています！

尾道青年会議所では、様々なチャレンジをする機会を作っていますので、これからも共感・賛同・参画いただけるよう、活動してまいります。

(記事:岡田 貴臣)



編集後記

れき似的な十連休が終わり祝日の全くない6月に突入しました。クールビズは昭和にはない文化でした。本格導入されたのは2005年(平成17年)からで、主として議員等に当時の小泉政権が旗振役となり進めたことが始まりです。当初は色々批判はありましたが今では我町尾道にもしっかり根付いています。北海道の様にあとは梅雨がなければなあ〜。

(記事:村橋 聡)

HP



facebook



理事長候補者等選考委員選挙

6月3日(月)合同委員会にて理事長候補者等選考委員選挙が行われました。

選挙に先立ち安本直前理事長より今回の選挙についての心構えや注意事項を説明し、投票が行われました。開票の結果、理事長候補者等選考委員に選出されたのは以下の7名の方々です。

(五十音順)

安楽城大作君・今岡正英君・大西貴明君・加度良平君
川崎耕平君・中谷純也君・美ノ上仁孝君

以上7名に山北理事長と安本直前理事長で構成される選考委員会によって次年度理事長候補者並びに、次年度監事が選考されます。

(記事:島田 元太)